

西浦駅待合所 学生チャレンジコンペを経験して

コンペ応募の動機

今回の学生コンペについては、知人からの紹介で知りました。学生向けのコンペで、アイデアコンペではなく実際の建築物が建つという点に最初は惹かれ、キックオフイベントに参加しました。

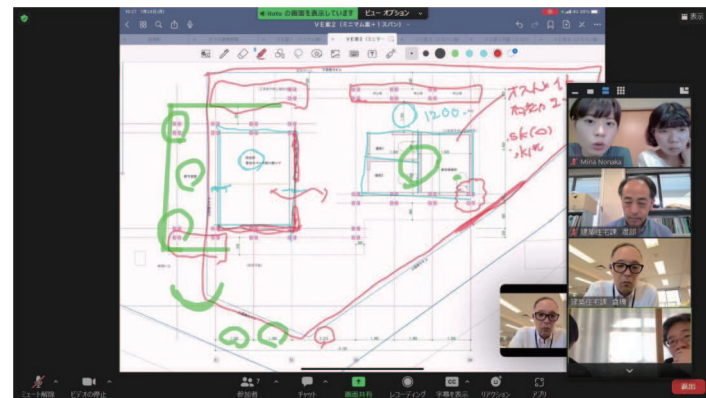
西浦は海に囲まれ、温泉などの豊かな資源と人々の生活があります。私たちの出身地である横浜も海が近い街ですが、同じ海のまちと言っても流れる時間感覚や空気感が違います。その魅力をデザインで追求したいと思いました。実際に現地を訪れた時、西浦駅に降りると風が吹き抜け、暖かな日差しを感じました。建築の想像をかきたてるような場所だと思い、コンペ提案に臨みました。

実施設計への携わり

私たちは、基本的に学校からリモートで打合せに参加しました。現地へ頻繁に赴くことが難しかったため、学校の床にテープで実寸の平面図をプロットして検討したり、ルーバーの間隔を決めるために2m近い実寸模型を製作するなど、なるべく実寸で検討するよう努めました。普段は小さなスケールで模型を作っていたので、新鮮な気持ちでした。色味や材料の検討についても、リモート画面上で共有することが難しかったため、自分達でなるべく多くのサンプルを集め、実物に近づくように選定しました。色んなメーカーをハシゴしたのはいい思い出です（笑）。

さらに、建築物の設計だけではなく建物サインや案内図のデザインについても学生側から提案することができ、トイレサインには建築の架構の要素を取り入れたこの建築にふさわしいオリジナルのデザインを考えました。

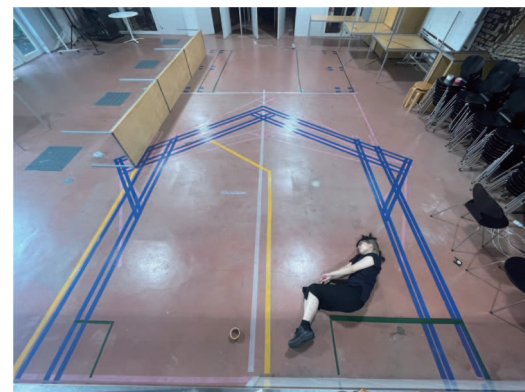
工事が始まり、建築現場へ出向いた際には、木架構に使用する金具の選定や、建具の色味について検討する機会がありました。サンプルの色味と実際に壁に塗った際の色味の違いについて現場監督の方から教えていただき、大変勉強になりました。



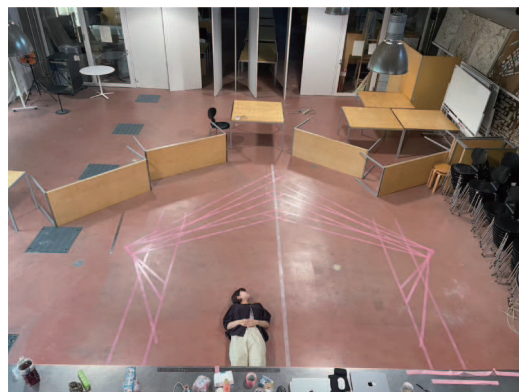
オンラインでの打合せ



木架構のモックアップ



ベンチの幅の検討



屋根勾配の検討



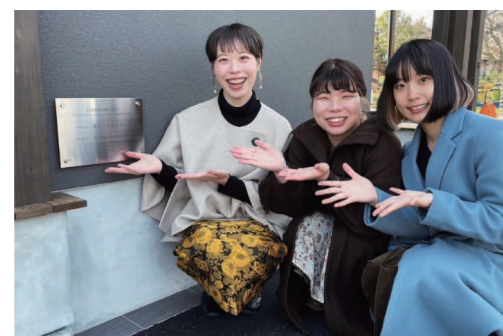
サインの検討



現場見学



現場打合せ素材検討



設計者プレート取り付け



オープニングセレモニー



駅待合所完成

完成を迎えて

組み上がった木架構を目の当たりにした時は、大変感動しました。学生の時に、自分達が設計した建築物が実際に建築される機会はなかなか無いため、大変貴重な経験をさせていただきました。現場で確認する重要性を学ぶことができ、設計者としてははじめの一歩を踏めた気がします。また、3人で待合所にプレートを取り付けけた瞬間の気持ちは感慨深いものがあり、この先忘れることはないと思います。

オープニングセレモニー当日は雨の中でしたが、とてもたくさんの地域の方たちが訪れてくれました。地元の漁師さんや家族連れの方たちと色んなお話をしました。地域の外から来た私達を歓迎してくださいました。設計したものが実際に使われて

いるところを見ると、このコンペに挑戦してよかったなと改めて思いました。その一方で、「ハンドベルの演奏会など地域のイベントなどにも活用していけそうだ」という話も伺いました。これから地元の方々にさまざまな形で、この待合所を使いこなしていただきたいと思います。

蒲郡という街でこのような経験をさせていただいたことをとても誇りに思います。蒲郡市の学生コンペは今後も続けられると伺いましたが、参加する学生側にとっても貴重な機会であるため、これからも多くの学生の方々に蒲郡の未来と一緒に考えていただけると嬉しいです。



最優秀作品賞
「風透る屋根の下で」

野中美奈（右）
大月菜子（中央）
飯島あゆみ（左）